

# THE WEEKLY NEWS OF EAST KISARAZU



国際ロータリー第 2790 地区  
木更津東ロータリークラブ  
2019-20 年度

●例会日 毎週水曜日 PM12:30~1:30 ●例会場 オークラアカデミアパークホテル TEL 0438-52-0111  
●事務局 木更津市東中央 3-5-2 第2 三幸ビル 101 TEL 0438-25-0716 FAX 0438-25-0718

## 2019-20 年度国際ロータリーテーマ ロータリーは世界をつなぐ ROTARY CONNECTS THE WORLD

第 30 回 例会 NO. 2487

2020 年 2 月 26 日 (水)

### 日本百名城 和歌山城【和歌山県和歌山市】



《今年度のトップ写真は日本百名城を掲載いたします。撮影者：栗坂禎一会員》

#### 司会進行 林孝二郎 SAA



◆点鐘 加藤智生会長  
12時30分

◆Rソング「それでこそロータリー」 2/23

◆出席 会員 48 名  
出席 35 名・欠席 13 名

◆出席率 81.39 %

◆前々回出席率 44.73 % 修正後出席率 65.78%

#### ◆欠席者【敬称略】

嶋津正和・齊藤新一・林田謙志・藤野宏治  
鈴木秀幸・石井文子・宮寺順子・渡邊慎司

#### ◆メイクアップ【敬称略】

・2/19 新会員オリエンテーション  
加藤智生・藤永範行・内田 重  
金見和子・叶川博章・中野麻美  
石井文子

・2/23 会長エレクトセミナー  
松岡邦佳

・2/26 第3回被選理事会  
加藤智生・松岡邦佳・大里光夫  
近藤直弘・吉田和義・塚本秀夫  
堀内正人・石田 亨・佐藤丈夫  
山田修平

・2/26 戦略会議  
林孝二郎・加藤智生・松岡邦佳  
近藤直弘・吉田和義・塚本秀夫  
堀内正人・石田 亨・山田修平

ホームページ <http://kisarazueast-rc.jp>

#### 木更津東ロータリークラブ

会 長 加 藤 智 生  
幹 事 藤 永 範 行  
編 集 堀 内 正 人

#### 国際ロータリー

RI 会 長 マーク・ダニエル・マローニー  
地区ガバナー 諸 岡 靖 彦  
ガバナー補佐 小 川 義 則

## ■ゲスト・来訪ロータリアン紹介 加藤智生会長

- ◇吉野弘則 様 卓話者
- ◇神谷義文 様 B S 木更津第 2 団
- ◇大原栄二 様 B S 木更津第 3 団
- ◇丸山京子 様 G S 木更津第 14 団
- ◇木更津総合高校  
長島沙也香 様 顧問教師  
秋倉香那 様 鈴木胡羽瑠 様  
木幡彩乃 様

## ■BIG&R の会 助成金授与式 加藤智生会長



## ■会長挨拶・報告

加藤智生会長

相変わらずコロナウイルスの話題が尽きませんが、政府は大規模な集会やイベントについて禁止するまでは強制しないまでもなるべく行わない方向でという見解を出していますが、先日ある高校の校長先生とお話ししていた時に、卒業式について話題になりました。結局卒業式は行うようですが、マスクを義務付けさせるか議論になったそうです。結果個人の判断に任せる形にしたようですが、難しい決断だと思います。

会員の皆様も様々な決断をしてきていると思いますし、これから大きな決断を迫られることがあると思いますが、決断に迷った時はどのようにしているのでしょうか？

そもそも決断ができないときは自分自身が迷っている状態で、最悪な結果を想像したり、後悔しないかという不安、傷つのが怖いと考えてしまうから決断ができないと思います。

そこで決断に迷った時は四つのことを信じて決断するとよいようです。

まず一つ目は直感を信じる。様々な方にアドバイスはいただくにしても最後に決めるのは自分自身でその多くは直感で決めているそうです。まず直感を信じるということ。

次に損をする覚悟を持つこと。全ての物事において、



て、完璧にメリットしかないものは存在しないということに自覚すること。

三番目は後悔しそうな選択肢は選ばないこと。中には直感で「これだ！」と決められないときがあると思います。そういう時は選択肢をいくつかノートに書きだして消去法で消していくという方法です。最終的に残ったものがベストな決断であることが多いようです。

そして最後は 20 秒だけ勇気を持つことが必要だそうです。もっと言えば 20 秒だけ別人になってしまうことも大切だそうです。是非参考にしてください。

## ■幹事報告

藤永範行幹事

### 1. 幹事報告



- 1) ガバナー事務所よりブラックタイ・パーティーのご案内が届いておりますので回覧いたします。
- 2) ガバナー事務所より RYLA セミナーのお礼状が届いておりますので回覧いたします。
- 3) 本日例会終了後第 3 回被選理事会がおこなわれます。被

選理事の方の出席をお願いします。

- 4) 2 月 29 日に第 5 グループのインターシティミーティングが木更津ビューホテルにて開催されます。

## ■RYLA セミナー報告 青少年奉仕委員会 石田 亨委員長・木更津総合高校 IA クラブ



### ・秋倉香那 様

2 月 15 日・16 日にかけて、RYLA セミナーに参加してきました。私のグループは、去年も参加したのが私だけだったので、目上の方ということもあり、ルールの説明や体験談を話すのはとても緊張しました。ですが、ここで伝えなければだめだと思い、カタコトながら自分から話をしました。そして周りにも、うまく伝わってなかったら聞き直しをしてくれたり、さらに質問をしてくれたり理解しようと何度も話をしてくれました。徐々に落ち着けるようになり、すぐ慣れ親しむことができました。歩行ラリーでは道に迷い、さらにはあいにくの雨だったり大変でした。ですが、お互いに励ましや盛り上げをし最終日にはゴールをすることができ、とても嬉しかったです。様々な職種の方と交流することは、なかなかないので貴重な体験が出来て良かったです。最後にこのような機会を頂きありがとうございました。

### ・鈴木胡羽瑠 様

2 月 15 日～16 日の 2 日間、RYLA セミナーに参加しました。2 回目の参加になりますがとても緊張してました。でも、どんな方と出会うかなんか会話をするのかとてもわくわくしてました。1 日目は歩行ラリーをしながらチ



ームの人と仲良くなるのが私の中での目標でした。地図を見てチェックポイントを目指して歩きました。たくさん間違えることで話す機会が増えました。その後グループで反省会をしました。その中で2日目に注意する事やグループでの目標を決めました。2日目はチームでゴールする！というのを目標にしました。昨日の反省を生かし、チームで協力して歩行ラリーをしました。協力してゴールすることができました。自分の意見を言うだけでなく、相手の意見を聞き受け入れることが大切だということを学びました。また、たくさんの失敗をして反省する。その反省を生かすことで成功することを学びました。たくさんの世代の方々と1泊2日のRYLAセミナーに行くことで自分と違った意見を聞くことができるとも貴重な体験となりました。ありがとうございました。

#### ・木幡彩乃 様

私は、今回のRYLAセミナーに参加して多くの失敗と成長をすることができました。1日目は初対面の人と上手く会話をする事が大切だと思い、歩行ラリーが散々な結果になりました。先入観にとらわれたこと、ルールの紙をしっかりと読まなかったことが、失敗の原因です。ユニットごとの反省では新たな発見も共有でき、多くの改善策を見つけることができました。2日目は初日が嘘のようにスラスラ進みゴールをすることができました。誤差も少なくグループの向上率の底上げに貢献しました。この2日間で私は失敗から学ぶことの大切さを実感しました。間違いを認め直す。それを考えることができたのもRYLAに参加したからです。RYLAでの経験は私にとって大きなものになりました。日々の生活の中でも「新たな視点でもの事を見ること」RYLAで得た「間違いを直すこと」を大切にしていきたいです。

### ■委員会報告

#### ◇ニコニコボックス

##### クラブ管理運営委員会

##### 根本光宏 会員

#### ・大里光夫 会員

素敵な花束を有難うございました。記念日に自宅の猫が逃げ出し、花を愛する余裕もありませんでした。2日後無事に帰って来ました。一安心です。



#### ・石田 亨 会員

今日は2月15日と16日にRYLA 21世紀リーダーシップセミナーに参加された3名の感想をいただきます。私も参加しました。皆さんも機会があれば一度は経験するといいですよ。

#### ◇新型コロナウイルスについて 勝呂泰樹 会員



勝呂会員より、コロナウイルス感染に対するひとつの予防方法【医師会報告】としての紹介がありました。今回のウイルスは熱に弱いという事で25℃～28℃位の白湯を飲むことが有効であるということです。早急の終息を望むばかりです。

### ■例会アワー 進行 職業奉仕委員会

##### 大里光夫 会員



「アマチュア野球国際審判員として親た世界」  
～国際大会の経験から～  
全日本野球協会国際審判員  
吉野 弘則 様



本日は、このような素晴らしい会にお招き頂き心から感謝申し上げます。申し遅れましたが、私、木更津市在住の吉野弘則と申します。



まず始めに私の自己紹介をさせていただきます。私は、地元木更津市高柳に生まれ、木更津市で育った根っからの木更津っ子であります。

私には、二つの職務があります。ひとつ目の職務(本職:職業)は、木更津市民の生命、身体及び財産を多種多様な災害から守る木更津市消防本部に勤務する消防士、ふたつ目の職務(天職)は、国際野球連盟またはアジア野球連盟等の国際的な野球団体が主催する国際大会をジャッジする国際審判員という職務でございます。

普段、国内ではアマチュア野球最高峰の大会、当地区では日本製鉄かずさマジックが出演する社会人野球の都市対抗野球大会や全日本大学野球選手権大会から始まり、夏の高校野球、そして中学生の軟式野球までと硬式軟式野球の全ての幅広いカテゴリー中での野球の審判員として携わらせて頂いております。日本国内におけるアマチュア野球審判員は約4万7千人、ライセンスの種別は国際審判員(国際大会の審判をすることが出来る)、1級審判員(全国大会の審判をすることが出来る)、2級審判員(地区大会の審判をすることが出来る)、3級審判員(都道府県内大会の審判が出来る)となり、私が資格を有する国際審判員を取得するためには、アマチュア野球規則委員会による国際審判員認定講習(筆記テストと実技テスト)で所定の成績を収めた者かつ50歳以下の者という厳しい条件をクリアした者だけがこの称号を手にすることができ、現在日本における国際審判員の有資格者はわずか30人弱、千葉県では現在私1名のみでございます。

私は、一昨年の2018年における最高峰の大会でもあり、2年後に控えた2020年に日本で開催される東京オリンピックの前哨戦とも評される大会の世界ソフトボール野球連盟(WBSC)U-23ワールドカップ野球大会に日本からただ一人、中南米のコロンビアに派遣して頂きました。日本代表チームは、稲葉篤紀監督率いる侍ジャパンが出演したことで有名な大会でもありました。

当初、今大会はニカラグアでの開催が発表されていたわけですが、政情不安、治安の悪化等により開催地変更が発表されました。しかしながら、その後開催地がなかなか決まらず、もしかしたら大会自体がなくなってしまうかもと噂され、希望が少しずつ不安に変わる毎日でしたが、同じ南米のコロンビアに開催地が決定され、ワールドカップ大会に派遣させて頂けると聞いた時は、嬉し涙を流したことが昨日のこのように蘇ってきます。

特に前年、アジア野球連盟(BFA)U-15アジア選手権大会2017に派遣させて頂きましたが、日本開催(静岡県伊豆市)であったため、今回が初めての海外派遣となり、出発前までこの大会のことばかりを考えて本職の消防士としての仕事が手につかない日があったのも事実であります。(苦笑)

そして私にとっては初めての経験ばかりで、航空チケットがなかなか届かず不安を感じましたが、出発6日前に手元に届いて安心したこと、日本からの直行便はなくアメリカ国2空港でのトランジットを経由してコロンビア入りするため、アメリカ入国を許可してもらったESTA(日本を含むビザ免除プログラム対象国の市民は、米国に観光や商用目的で90日以内の短期滞在する場合のビザ免除プログラム申請及び認証が必要)の事前申請手続きを自身で取得したこと、しかも英語圏内ではなくスペイン語圏内ということもあり、出発前からアジア審判長の小山審判長からのアドバイスも頂き、『地

球の歩き方・コロンビア編』や『旅の指差し会話帳スペイン語』等、沢山の書籍やグッズを事前購入、熟読し、前日にバッグに詰め込み、いざという時に対応できるように準備を整え、渡航に備えました。

そんな中、関係各位の励ましにより、10月16日午前10時55分に勢よく日本を飛び立ちました。

日本を出発、アメリカ・ダラス空港まで11時間35分、トランジット4時間15分。

ダラス空港からアメリカ・マイアミ空港まで2時間54分、トランジット1時間01分。

マイアミ空港から目的地のコロンビア・バランキジャ空港まで2時間50分。合計22時間35分を要し、同日19時30分に到着しました。

飛行機を降り、入国審査も無事に終了、到着ゲートを出るまでは順調でしたが、ここからは私が予測をしていなかった事態が起こったのです。

なんと到着ゲートを出ても誰もいない、迎えスタッフの方が誰もいなかったのです。

海外派遣初めて、しかも1人での渡航の私にとっては、想定外の一大事。

周囲をしばらく探して見てもそれらしき人物は誰ひとりおらず、仕方なく空港の外を見に行くと、ギャングのような危険そうな男達が数人うろついていました。

治安があまり良くないことは事前にお聞きしていたので、慌てて空港内に戻り、ベンチに

腰掛け、思わず自身の携帯電話を使い、国際電話にてアジア審判長の小山審判長に電話を掛けました。すると『吉野、そのくらいは想定内、良くあることだよ。メールか何かで大会本部あてに連絡してごらん。』と冷静な口調で答えてくれました。

私は少し落ち着きを取り戻し、大会本部にメールをしてみると、数分後、大会本部からのメールで『まもなく空港でピックアップされるはずですよ』との返信がきました。

それから根気よく待つこと約1時間、『ヨシノー、ヨシノー』と大会ロゴの入った帽子をかぶった男性二人が名前を呼びながら近寄ってきました。正直、ホッとした瞬間でした。その後、迎えの車に乗って宿泊するホテルに向かったということから、私の今大会が始まりました。

大会の行われた南米コロンビアは、湿度が高く、気温が30度を超える熱い毎日で常に汗ばむ陽気、日本の気候に例えるならば、梅雨が明けて夏に切り替わる7月初旬に似ています。

日本代表チームが予選グループAのバランキジャ会場に入っていたため、私は予選グループBを担当、約400km離れたモンテリア会場にコロンビア国軍の輸送機で移動したことも国を挙げて今大会に協力的な一面だと感じると同時に私にとってもなかなか味わうことのできない貴重な経験となりました。



私が担当するモンテリアの

会場の人々は、非常に気さくで野球熱も高く、ましてやこのようなビッグな大会が来ることに市民は歓迎ムード一色、スタッフとなる方々はとても親切な対応で我々に一生懸命接してくれました。本当に素晴らしいこの国民性に触れて感じたことは、2年後の2020年東京オリンピックにおいて我が日本もこうありたいと胸熱く込み上げる思いになりました。

大会自体も非常にレベルが高く、スピード感と迫力あるプレー、スタンドへ詰めかけた野球熱の高い観衆に審判員として、これに応えるべきジャッジをしなくてはならないという思いになり、併せて国際大会の醍醐味を感じるものとなりました。

また、今大会は各国の審判員、特にスペイン語圏内の審判員との交流を深めることが出来たことも大きな財産となりました。大会終了時、今大会、私が身に付けていたマスク、プロテクター、レガース、審判シューズ一式等を発展途上国の審判員に提供させて頂いた時、モンテリア会場審判長のパナマのEdgar Estivison氏より『Hironori(ひろのり)、japon(ハボン:日本)、Guracias(ありがとう)』を連呼され抱き合ったことも野球普及に貢献できた瞬間であったと思いました。

参考までに帰りの道のは、行きのフライト時間より長く、29日7時59分に出国。

コロンビア・バランキジャ空港からアメリカ・マイアミ空港まで2時間55分、トランジット9時間41分。マイアミ空港からアメリカ・ダラス空港まで3時間12分、トランジット10時間48分。特にこのダラス空港に到着した時間は、23時47分で翌朝の10時35分までの10時間48分のトランジット時間を誰もいない深夜の空港ベンチ椅子の上で仮眠を取ったことは今後、あとにも先にも勇気を絞った貴重な経験となりました。そして、ダラス空港から日本・成田空港まで13時間55分。合計時間40時間31分を要し、31日の14時30分に到着した長旅となったことも併せて非常に良い経験をしました。

このような素晴らしい経験をさせて頂いた中で国際審判員として特に感じたにものは、語学能力、そして何よりもタフな体力と強靭な精神力が必要不可欠であり、特に他国の人々のコミュニケーション能力を日頃から養っていかなくてはならないと痛感いたしました。例えば日本において大抵の日本人は一人でご飯を食べている仲間を見つけると、「こちらにおいてよ」と仲間に入れてあげて友情を深めるような慣習がありますが、海外ではその慣習は全くありません。むしろ、ひとりでいたいからそっとしておいてあげようという相手の気持ちがある意味、尊重(リスペクト)し、自ら仲間に入ってくれば大歓迎だよといった違いが随所に見られました。これもまた、積極的に人と接するコミュニケーション能力が問われ、人との出会いと縁を大切に熱いハートで何事にも向き合えば、どんな場面も乗り越えられることも身をもって体験することが出来ました。また、日本と海外における野球に対する大きな考え方も違いがありました。

例えば、日本は監督の指示で『初球は待て、様子を見てストライクゾーンに来た良い球が来たら打とう』『ボール球には手を出さな』という打撃に対する考え方、『ストライクからボールになる球で打ち取ろう』という打球に対する考え方等の傾向がありますが、海外は『ファーストストライクから積極的に打とう』『君が打てると思ったらどんどん積極的に打とう』という打撃に対する考え方、『君の持っているベストボールをストライクゾーンで勝負、力と力の勝負をしよう』という打球の考え方。また、自チームの選手がミスをした場面でも、その選手を責めるのではなく『ナイスストライク、そのミスを次につなげよう』というプラス思考での捉え、相互の人格を尊重(リスペクト)しあうスポーツマンシップに則った懐の深いダイナミックな野球に感動、貴重体験をすることが出来ました。今後も国際大会への派遣で実力を発揮できるように普段から準備をすると同時にこの熱き思いを忘れず、この経験を活かし、国際審判員としての自覚と責任を常に持ち、更なる研鑽を重ね、日本野球界はもちろんですが、私の礎となる地元木更津市の皆様方への国際大会等での経験談を伝え、微力ではありますが社会貢献のために尽力していく所存でございます。まずは、目前に迫った本年2020年東京五輪の夢舞台に立つことを目標に日々精進して行きますので、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願いたします。



## 本日のメニュー



点鐘 加藤智生会長 13:30